

桜竹梅

平成20年 7月号

発行所 医療法人 仁栄会
〒780-0066
高知県高知市比島町4丁目6番22号
TEL 088-823-2285
FAX 088-824-2363
発行者 島津 栄一
ホームページ
<http://www7.ocn.ne.jp/~shimazhp/>



ご挨拶

院長 三宅 晋

高知県の梅雨明け宣言が7月4日になされましたが、その後も毎日うっとうしい雨と、蒸し暑い日が続いています。

先月は、東京・秋葉原の無差別大量殺傷事件の報道が世間を騒がし、まだ、ほとぼりも冷めないうちに、岩手・宮城内陸地震の惨事、その後も、連日、牛肉、うなぎ、鶏肉の偽装事件、殺人事件の報道がされています。国会は、後期高齢者医療法案に起因する「参議院での首相問責決議可決」を受け、衆議院本会議での法案審議は空転状態のまま、閉会してしまいました。今の日本の現状を憂う人がいかに多いことでしょう。

なにか、明るい話題はないでしょうか？

目を、島津病院に向けましょう。明るい話題があります。

今年2月に受けました病院機能評価（Ver5）の結果が出ました。二、三のご指摘をいただきましたが、決定的な改善項目もなく、この7月10日、待望の合格通知が発送されてきました。病院職員がひとつの目的のために一致団結して頑張ってきた結果ができました。平成19年にはいり、事務長から、「平成20年2月に病院機能評価（Ver5）を受けます。」との宣言がありました。いままでも、業務改善、医療安全、良質な医療の提供など検討をかさねていました各種委員会活動はそれを機会に、ますます白熱しました。

最善の医療を、いかに安全に提供し、患者様に満足していただけるか？そのためには、どのような改革をするべきか？しかし、この検討の過程は、島津病院が今まで35年にわたって、構築してきた「病院を主体とした旧システム」そのものを、否定することから始まり、「患者様主体の新しい

システム」に変革してゆく過程であり、医療についての職員の意識が、根底から覆らされ、全く無からの意識改革を余儀なくされた過程でもありました。それは筆舌に尽くしがたい大変な苦労があったと思います。理事長をはじめ、各職員の皆様が、遅くまで激論を交わし、それを記録し、皆、一団となって頑張りました。島津病院には、こんなにも膨大なエネルギーが蓄えられていたとは、今になって驚いています。そして、この一年で、みごとに開花させることができました。

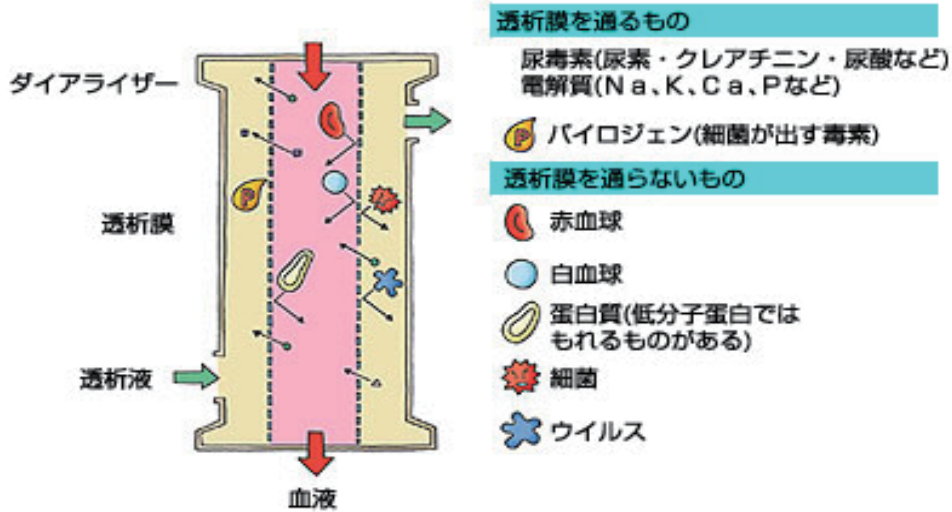
平成20年2月19日、20日受審いたしました。打ち上げ慰労会席上で、私は、達成感・充実感でいっぱいの皆様を拝見し、謝辞の途中不覚にも、感激の涙でスピーチが幾度と無く止まってしまいました。よくぞここまで、あきらめ挫折することなく、頑張り貫いていただけました。ほんとに、心からお礼と感謝をいたします。

この自信と、エネルギーを糧に、当院の医療理念、「病む人への思いやりをもって、安全で安心のできる高度な医療の提供」をさらに、充実、実践し、患者様に満足していただける、明るい病院創りにスタートしましょう。

外は今日も雨が音も無く降っています。しかし、雨に濡れた樹木の葉はいつのまにか深い緑に変わり、枝いっぱい生い茂っています。梅雨明け宣言もありました。暗くて、閉塞感漂う今の世にあっても、目先を一つ変えれば、また、気持ちも変わります。以前、私が勤務した病院の内科では「Happyですか？」が医師、看護師、職員みんなの合言葉でした。明るくて、やさしくて、Happyな職場、島津病院にしましょう。

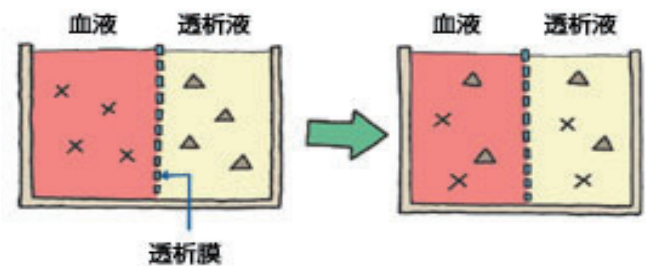
透析だより

血液透析のしくみ



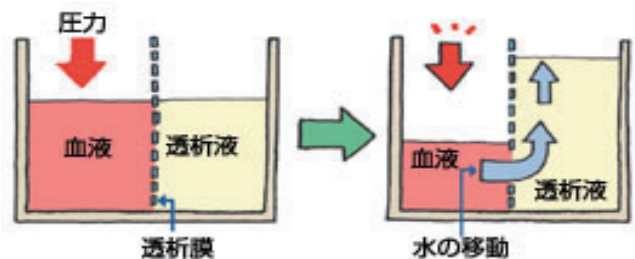
◆拡散の原理

物質の通過できる膜で隔てられた2つの溶液では、同じ濃度になろうとする力が働きます。血液中の老廃物は透析膜を介して透析液側に移り、また同時に血液中に不足しているものは透析液側から補われます。



◆限外濾過の原理

体の過剰な水分は透析膜に物理的な圧力をかけて取り除かれます。



グループホームだより

●グループホームやすらぎ●

三味線演奏会

4月26日土曜日 入交哲史さんによる三味線の演奏会を開催しました。ホームの入居者さんや近隣の方に来て頂き『よさこい節』等、三味線に合わせて一緒に合唱しました。

氣とは

～生命のエネルギー～

●セカンドライフ支援講座●

日常使う言葉の中に「氣」のつく言葉が沢山あります。たとえば、元気、勇気、活気、気合、強気、本気、気楽、陽気、根気、気持ちが良い、気が入る、気が出る、気がつく、やる気がある、などプラスの言葉。反対に、弱気、陰気、内気、気が滅入る、気が重い、気にかかる、気を抜く、気がゆるむ、気にさわる、などといったマイナスの言葉もあります。

「病は氣から」といわれますが、氣が低下したり、なくなったりしますと「病氣」になります。「氣」は「元氣」の元です。「病をしても病氣をするな」といわれるのは、身体の障害は仕方のないことですが、氣まで病むと弱氣になり、生命力を衰えさせ、治る病も長引かせたり、悪化させたりするといわれます。

「氣」の概念は古くから東洋医学にあります。「身に病あっても、心は必ずしも病まない」という気概が必要です。まれに末期ガンの人が病に勝って、天寿を全うすることがあります。「氣が張っている」と、厳寒のもとの水中訓練でも、風邪ひとつひかずに行うことができます。

しかし、「氣」とはどのようなものですか、と尋ねられたら返答に窮します。自動車もガソリンがなければ動きませんし、機械も電気を流さないと作動しません。このように、体が正常に動くためのエネルギー源のようなものが「氣」に相当するのではないのでしょうか。

「氣」とは宇宙にあるすべての物を構成する最小単位のようなものであり、宇宙にあるあらゆる物、事、現象の生成、発展、変化の原動力であるといわれています。

また、人間の心と身体を結合し、心身を統一させる生命情報であるともいわれています。氣の質は、人間の健康状態、道徳、品性、訓練方法、環境、意識の持ち方などに左右されるといわれています。

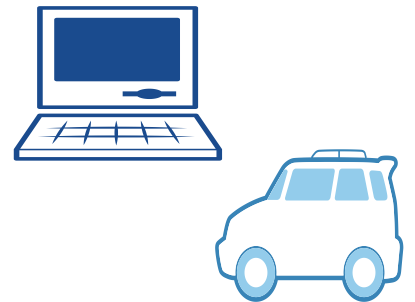
人間の活動を目に見える「身体」と見えない「心」の2つに分けて考えることが多いですが、本来、両者は車の両輪のようなもので、バランスよく一つになって働かなければ人間の生命力は高まりません。「心」と「身体」の性質・関係をよく理解し、心と身体を一つに統一して、バランスよく使うことが重要です。

目に見える部分が氷山の一角としての「身体」で、水中の見えない部分が「心」に相当するといわれます。心と身体を一つに統一して使った時、冰山全体、すなわち「氣」の力が発揮され、我々の生命力も最高に達し、自己の持っている総合力が発動され、この総合力が人間本来の力です。俗に「火事場の馬鹿力」と呼ばれる力は、「心」と「身体」を統一した時の総合力によるものといわれます。

「氣」とは、本来、誰もが一樣に持っている力です。プラスの氣を出すためにはプラスの考え方をし、プラスの言葉を使うことが大切です。プラスの言葉を使った時は、氣が出て生命力が高まります。マイナスの言葉を使った時は、氣が低下し、生命力も低下します。「氣」は生命エネルギーといえます。正常な氣が流れている体には病が無いといえます。氣の流れが良いと言うことは、身体の免疫力、治癒力が強いこととなります。

多くの病氣は体全体の氣の流れが悪いが、部分的に流れが悪いことが原因と考えられています。したがって、健康になりたいければ氣を出せばよく、心と身体を統一して使えば、人間の持っている最高の力を発揮することが出来ます。東洋医学では、古くから氣の流れをよくすることで治癒力を高め、氣を出した状態で相手の障害部位を圧する「氣圧療法」や「氣功療法」などが治療法として行われています。

「氣功」は、中国古来の「氣」と中国医学の理論に基づく特殊な「自強養生術」（心身健康法・自己開発法）で、調身・調息・調心という三要素からなっており、人間にとって大切な生命の源であり、生命エネルギーである「氣」を増強し、コントロールする方法です。これを用いて訓練することによって、健康長寿を達成し、知力と能力を高め、潜在脳力を開発することで、人類の進歩発展に役立つものと考えられています。



氣を医療に用いて患者さんを癒すことが出来れば素晴らしいことです。しかし、人に送氣した時に強すぎるとかえって違和感を抱かれてしまいますし、弱いと何の効果も得られないといわれます。そこで、送氣者自身が受け手が心地よいと思える様な適正な氣を送氣出来るよう日頃から正常な氣を保っておくようにつとめなければなりません。適切な送氣により思いもよらないような治療効果が現れるかも知れません。個人的な感想ですが、日常診療において、若い患者さんの治療にはそれ程疲れませんが、高齢者は氣が低下していることが多く、治療側がより多くの氣を奪われるためか、疲労が強いように感じられます。

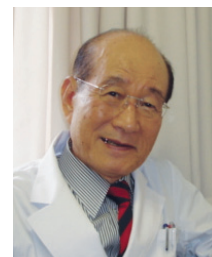
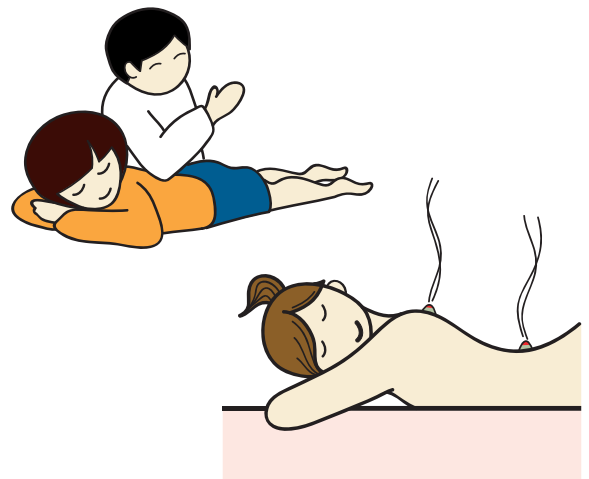
現在、氣は鍼灸術やマッサージをはじめ、様々な分野で活用されています。ツボの科学的メカニズムはまだ十分には解明されていません。鍼治療やツボは、生命力や血流、自律神経、ホルモン、脳と深く関係していると考えられますが、まだ科学的根拠は十分ではありません。鍼灸術は身体に本来備わっている回復力、治癒力、生命力を強化することによって、身体の細胞の再生能力や血流を改善するとされています。

東洋医学では、氣の循環に障害が生じると病気になると考え、このエネルギーの通路が体表の近くに現れた部位を「ツボ」と呼び、鍼灸治療の診断・治療の重要な箇所になっています。内臓の弱りは経絡とツボに現れます。鍼治療は、この経絡上のツボを刺激することによって効果をあげようとするものです。

鍼治療は、体の不調の原因を調べ、皮膚上にあるツボを選択、鍼で氣の流れの調整をします。これにより各部位の生理的働き、つまり、氣の循環が正常に戻り、症状が軽減されるといわれています。鍼治療は、自然治癒力を氣の力により高める治療法といえます。

鍼灸では、補法と瀉法という概念があります。「補法」とは氣を補うことで、「瀉法」は余分な氣を散らしたり取り除いたりすることです。人体の氣は、自然界の氣と常に交流しているといわれます。補法は自然界の正氣を人体に誘導し、エネルギーレベルを向上させる手技で、瀉法は自然界に存在する六種類の外邪（人体の機能を損なう性質の氣）すなわち、風・寒・暑・湿・燥・火を取り除く手技です。

日常生活においても氣の概念を取り入れ、氣を出すために、プラスの考え方をし、プラスの言葉を使うことが大切です。プラスの言葉を使った時は、氣が出て生命力が高まります。しかし、マイナスの言葉を使った時は、氣が引っ込み、生命力が低下します。



副院長 森 惟明

森 惟明先生の「セカンドライフ」はホームページでもご覧になれます

<http://www.i-kochi.or.jp/prv/morik/>

栄養だより ～ 食欲不振 ～

ーさっぱりした味付けで栄養の在る物をー

食欲不振は、もともと胃腸が丈夫でない人におこりがちです。また、そうでない人でも、ストレス、そのほかのことで疲れがたまりすぎていると食欲は減退します。特に夏の暑い季節になると、冷たい物を飲みすぎたりして、食欲不振になりがちです。ですからぜひ、おいしく食べられるように食事を工夫して、食欲不振そのものを治したいものです。

それにはまず、脂っこくない料理法にすることです。かといって、さっぱりとしたものばかりでは偏食になり、体力も衰えてしまいますから、魚、鶏などの大切な栄養源を、さっぱりとした味付けでいただくようにしてみましょう。肉類も消化のよい（脂身の少ない）物を選ぶとよいでしょう。

特に暑いときに、冷たいものを冷たくして食べるよりも、かえって、温かい料理にアレンジすることも、食欲不振を防ぐ方策でしょう。このとき、スパイスやハーブで口あたり、味わい、のどごしに変化を加えてみましょう。

胃腸が不調の時は、刺激物を押さえ、消化の悪いものはやめて、そして食事時には食欲がないからと食事を抜かないで、少しでも口にするようにしましょう。

- ☆おすすめメニュー
- ・揚げだし豆腐
 - ・冷やしとろろ
 - ・冷やし茶碗蒸し など



小規模多機能型居宅介護ひじま

小規模多機能型居宅介護ひじまでは、毎月第一水曜日午後2:00～3:00に、ぴんの会赤十字奉仕団の方においでいただいています。季節に合わせた歌や全身を動かす体操、日本舞踊やフラダンスなどバラエティに富んだ内容で、利用者さんやクリニックの患者さん、近所の方々、そして職員も含めて楽しませています。



花便り

あじさい

日本原産の最も古いあじさいは、青色とのこと。花はつぼみのころは緑色、それが白く移ろい 咲くころには水色または薄紅色へ。咲き終わりに近づくとつれて、花色は濃くなっていく。花は白く咲き始めたばかり。梅雨の間は、私達の目を楽しませてくれるでしょう。



外来診察表

午前(9:00~12:00)

	月	火	水	木	金	土
内 科	三宅・大崎(多)	大崎(多)・大崎(史)	三宅・大崎(史)	岩崎(医大)	三宅・大崎(多)	大崎(史)
外 科	島津	野口	武田	公家	島津	公家
整形外科	兼松		兼松	兼松	兼松	
脳 外 科	森			森		
泌尿器科	野口	野口	野口		野口	医大
循環器科		小田(予約制)	小田			
消化器科(内視鏡)	公家	公家	公家	公家	公家	公家

午後(14:00~18:00)

	月	火	水	木	金	土
内 科	三宅	大崎(史)	三宅	岩崎(医大)	三宅	
外 科	岡林(医大)	兼松	兼松	公家	公家	
整形外科	兼松	兼松	兼松	兼松		
脳 外 科	森					
泌尿器科	野口	野口			野口	
循環器科		小田(心エコー-外来)	小田(予約制)			
放射線科					久保田(医大)	
消化器科(内視鏡)						

- 三宅院長(内科)は午後から不在の場合がありますので、事前にお電話でご確認をお願いします。
- 担当医が不在の場合がありますので、事前に確認をお願いします。
- 休診日は土曜の午後・日曜・祝祭日・年末年始です。

患者様の権利

- 一、個人として常にその人格を尊重される権利があります。
- 二、良質な医療を平等に受ける権利があります。
- 三、個人のプライバシーが守られる権利および私的なことに干渉されない権利があります。
- 四、自分が受ける治療や検査の効果や危険性、他の治療法の有無などについて、わかりやすい説明を理解できるまで受ける権利があります。
- 五、自分の治療計画を立てる過程に参加し、自分の意思を表明し、自ら決定する権利があります。
- 六、自分が受けている医療について、知る権利があります。
- 七、患者様自らが、医療従事者と共に力をあわせて、これらの権利を守り発展させる責任があります。

医療理念

「病む人への思いやりをもつて、安全で安心のできる高度な医療を提供します。」

医療方針

- 一、生きることへの共感、病む人への思いやりをもって医療に従事する。
- 一、当病院の専門としている医療部門においては、医療レベルの向上に努力し、先進的医療を提供する。
- 一、病病、病診連携を大切にし、地域住民の立場に立った医療に貢献する。

診療科目 内科・外科

診療時間 月～金 午前9:00～12:00
 月～金 午後2:00～ 5:00
 土 午前9:00～12:00



采元先生

島津クリニック比島

〒780-0066

高知県高知市比島町2丁目10番地31号

TEL: 088-826-6230

FAX: 088-826-6231



診療科目 外科・循環器科・内科・泌尿器科・整形外科

診療時間 月・水・金 午前9:00～12:00
 月・水・金 午後2:00～ 6:00
 火・木 午前9:00～12:00
 火・木 午後2:00～ 5:00
 土 午前9:00～12:00

診療機器 レントゲン(一般・造影)
 CT(頭部・体幹・造影)
 内視鏡(胃・大腸)
 エコー(胸腹部・甲状腺・心臓)
 EKG ホルターEKG



島津 裕和先生

島津クリニック

〒785-0013

高知県須崎市西古市町3番15号

TEL: 0889-43-0003

FAX: 0889-42-1529

